

第3回融合委員会の目的：「未来像，重点戦略の検討」

成果の概要

第2回融合委員会の議論を踏まえ作成された未来像（案）に基づき，主に未来像の表現や内容，未来像相互間の関連性について検討されました。

未来像の考え方について多様な意見が出され，議論の結果，それぞれの未来像が相互に関連していることが確認されました。

未来像の相互間の関連性（詳細は別添報告資料2参照）



重点戦略については，宗田委員長，平井副委員長と事務局で作成した，たたき台が提示されました。

今後，本日の結果を基に，共汗部会においても意見をいただき，市民一人ひとりに具体的なイメージを持っていただけるよう未来像，重点戦略の内容を磨き上げることとなりました。

その上で，4月に開催予定の第4回融合委員会において，第1次案が検討される予定です。

実施概要

- 日時 平成22年2月2日（火）午後3時から午後5時まで
- 場所 京都商工会議所（3階役員室）
- 参加者 立石副会長，浅岡副会長，宗田融合委員会委員長，平井融合委員会副委員長（11名）
乾委員（うるおい部会部会長），梶田委員（うるおい部会副部会長）
堀場委員（活性化部会部会長），秋月委員（活性化部会副部会長）
森委員（すこやか部会部会長），塚口委員（まちづくり部会部会長）
松山委員（未来の担い手・若者会議U35議長）
（市の参加者） 由木副市長，西村総合企画局長，柴山政策企画室長，大田京都創生推進部長

当日のプロセス

開会
本日の議事の説明
尾池会長，加藤委員から事前に出された意見の紹介

議事1
未来像及び重点戦略の検討

5つの未来像（案），重点戦略（たたき台）について検討

① 第2回融合委員会で検討された未来像を基に作成された未来像（案）を提示

② 未来像の検討
主な意見

③ 重点戦略（たたき台）を提示

今後，融合委員及び共汗部会の各委員に意見をいただきながら，第1次案を作成していく。

議事2
分野別方針について
分野別方針のアウトプットイメージについて共有



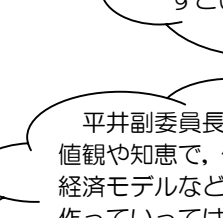
宗田委員長から「未来像の表現や内容，未来像相互間の関連性について議論を深めてほしい」と説明



乾委員から「協力社会と市民参加を別の次元のものとしてとらえるべき」と提案



堀場委員から「京都型経済とは，歴史・文化のバックグラウンド，例えば物を大事にするといった価値観の下で，新たな産業を生み出すということ」と発言



平井副委員長から「京都が持つ価値観や知恵で，低炭素社会や新たな経済モデルなど，先進的なモデルを作っていくってはどうか」と発言



立石副会長から「都市の未来像を考えると，生活者である市民が働きやすい，暮らしやすい，住みやすい，育てやすい，弱者に優しい社会を実現することが結論ではないか。」、「一歩先じた未来像を示すことが京都らしさにつながる」と発言



森委員から「人口減少という大前提を想定したうえで，人口を維持する，減少の速度を落とすといった前向きな議論が必要」と発言



松山委員から「実際に携わっている人のやってみたいという気持ちを引っ張り上げるような視点を入れてはどうか」と発言



浅岡副会長から「未来像の表現や重点戦略は，各委員が関わる分野もあるので，言葉を直す時間をいただきたい。共汗部会でも意見を求めているどうか」と提案

第3回融合委員会の結果 未来像（案）

生活者の視点

参加

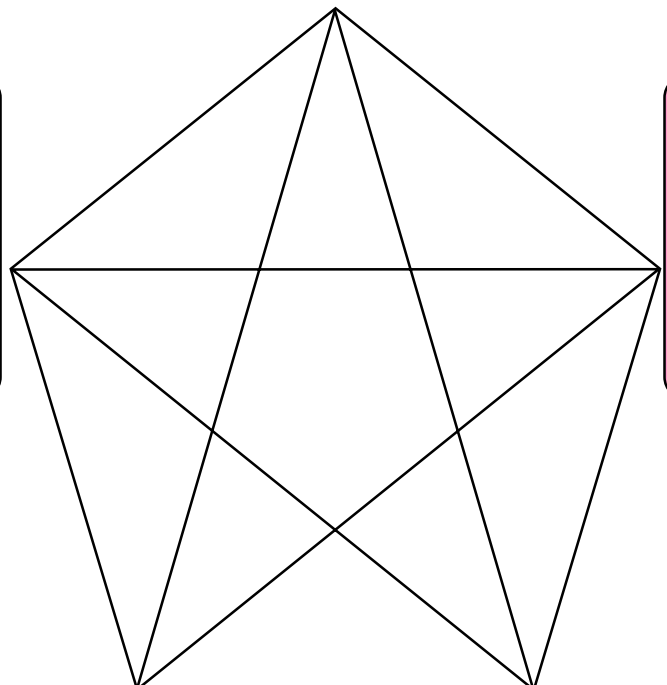
a 低炭素*の京都をつくる
 急速な地球温暖化の進行を止めるために、人為的な炭素ガス排出量の削減、化石燃料に依存しない交通、森林等の自然環境を守り、まち全体を持続可能な低炭素なまちにする。
 *温室効果ガスの排出が少ない

b 京都の歴史・文化を継承・発展させるまちづくりを進める
 京都が有する歴史、景観や文化、伝統が息づく生き方、暮らし方などの都市特性を活かして、都市格を磨き、市民が一層誇りを持つまちにする。

c 京都型経済モデルをつくる
 「低炭素社会を先導する産業」、「デザイン、味、水等、京都の伝統文化を活かした産業」、「観光産業」などが連鎖する新しい京都型経済モデルをつくる。

e 協力社会をつくる
 色々なところに参加できる仕組みが整い、みんなが無理なく少しずつ努力することで、市民参加を多面的に高め、自律的な地域コミュニティを育み、すべての人々が共に尊厳を認め合い、支えあう安心・安全なまちにする。

d 人材を育てる
 社会全体で子ども、若者を育て、国際的ビジネスリーダーやオピニオンリーダー、地域の担い手など、様々な分野で未来を担う人材が育つまちにする。



主な意見

未来像について

- 市民参加、パートナーシップ
 - ・協力社会と市民参加を別の次元のものとしてとらえ、市民参加は、様々な取組を進める際のベース概念として位置づけるべき。
 - ・市民参加を一步進め、本来、個人が自立しながらいかに関わるかという概念を持つパートナーシップとして表現してはどうか。
 - ・政策や方針決定に市民も参加することが求められている。国際社会と比べ、日本は遅れているので、京都はその先端を行ってはどうか。
- 京都型経済モデル
 - ・京都型経済とは、歴史・文化のバックグラウンドにある例えば物を大事にするといった価値観や知恵の下で、新たな産業を生み出すということ。
- 生活者の視点に立った未来像
 - ・都市の未来像を考えると、生活者である市民が働きやすい、暮らしやすい、住みやすい、育てやすい、弱者に優しい社会を実現することが結論ではないか。
- 一步先じた京都らしい未来像
 - ・京都の特性を活かし、他都市より先駆けたビジョン、一步先じた未来像とするべき。
 - ・bとdは京都らしさを出せる要素。
- 市民が分かりやすい、共有しやすい未来像
 - ・実際に携わっている人のやってみたいという気持ちを引っ張り上げるような視点をいれてはどうか。
 - ・市民にわかりやすい、日常会話で使う言葉を用いる。
 - ・「これ」とみんなが思ってもらえる未来像を提示する。整然と同じレベルのものを並べなくてよい。
 - ・どのように描いても未来像は伝わらない。地域の課題にブレイクダウンできる「翻訳者」が重要。
- 人口減少社会の見通し
 - ・人口減少を前提としたまちづくりが必要。地域別や年齢構成の変化等の見通しを踏まえた未来像とすべき。
 - ・人口を維持する、減少の速度を落とすといった前向きな議論が必要。
 - ・若い人の人口比率を高めることが重要。若い人が住みたい京都。
- 人づくり
 - ・リーダーだけでなく、「京都が好き」という人づくりが重要。

重点戦略について

- ・羅列ではなく、市民が実践するために分かりやすい重点戦略を1本打ち出してはどうか。例えば「1%アクション」。
- ・「できることから」だけでなく、もっと意欲的なインパクトのある重点戦略も必要。
- ・融合しすぎてつまらないものにならないように。
- ・重点戦略については、まだ十分練られていない。
- ・よりよい生活を目指すのは、東京でも大阪でも同じなので、京都の強みである「学生のまち」「地域の力」をうまく使う。
- ・人材という言葉は、人を材料とする。別の表現にしてはどうか。
- ・基本構想策定時の審議会等において、自然との共生という言葉については、人間も自然の一部であるので、使わないようにしていただいた経緯がある。